対象地区	集落名	対象地区の課題	対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針	方針を実現するために必要な取組みに関する方針
横山上、横山中、横山下	横山上 横山中 横山下	5年から10年後、離農する方が多くなる。	離農する前に、認定農業者や新規就農者など、横山上・中・下生産組合に声かけを行う。	できるだけ横山上・中・下生産組合で話し合いをして、農地を継続して地域で作付け出来るように話し合いを充実させていく。
土橋	土橋	今後中心経営体が引受ける面積よりも、後継者未定の面積の方が多く、新たな農地の受け手の確保が必要である。	離農する前に、認定農業者や新規就農者に町内会で声かけを行うとともに、町内会に受け手がいない場合は、入作を希望する中心経営体の受入れを促進する。	将来の経営農地の集約を目指し、農地所有者は出し手・受け手にかかわらず、原則として農地を機構に貸し付けていく。
助川	助川	耕作者の平均年齢が70才を超え、後継者の目途がついていない現状。	4割いる認定農業者を中心に、新規就農者も出てきた。高付加価値化、低コスト化がビジョンとなる。	大型機械の導入と中間管理機構、中心経営体の充実を計る。
堤野、横内	堤野 横内	担い手不足。今後中心経営体が引受ける面積よりも、後継者未定の面積の方が多く、新たな農地の受け手の確保が必要である。個人の受け手にも限界がある。	・離農する前に、生産組合、認定農業者や新規就農者に町内会で声かけを行うとともに、町内会に受け手がいない場合は、入作を希望する近隣の中心経営体の受入れを促進する。 ・農地耕作者は再生機構も活用する。	・話し合いを大事にし、話し合いの場を設ける。 ・横山地区などの単位で法人化組織の設立が必要である。
竹原田、加藤、菱沼、小尺	竹原田 加藤 菱沼 小尺	農業者の高齢化による離農に伴う受け手の減少や、中心経営体が引受ける面積よりも、後継者未定の面積の方が多く、新たな農地の受け手の確保が必要である。	離農する前に、認定農業者や新規就農者に町内会で声かけを行うとともに、町内会に受け手がいない場合は、入作を希望する中心経営体の受入れを促進する。	・中心経営体に集積を加速し、基盤強化を図る。 ・話し合いを大切にし、地域の連携を深めていく。
横川、横川新田	横川 横川新田	今後10数年については、認定農業者または若手農業者により離農が予測される農業者の面積の引き受けが可能であるため、当面の農地の受け手は十分である。一方で、農地の集積・集約が課題となる。	離農する場合は、隣接する圃場の認定農業者または、若手農業者を優先して声を掛ける事により、効率的な農地の集積・集約化を行う。	生産組合の活動全般を通し、地域との情報交換を密にし、連携を深める。
青山	青山	青山農場への期待が大きくなる一方で、負担も大きくなっている。	基本的には、青山農場へ声をかけることとしている。また、引き受けられないような事があれば農地中間管理機構へもあわせて声をかける。	日頃より、集落間での情報交換を大事にし、総会等で話し合いを行う事とする。
天神堂、尾花	天神堂 尾花	・後継者がいない・リーダーがいない。 ・中心経営体の高齢化。 ・今後中心経営体が引受ける面積よりも、後継者未定の面積の方が多く、新たな農地の受け手の確保が必要である。	離農する前に、認定農業者や新規就農者に町内会で声かけを行うとともに、町内会に受け手がいない場合は、入作を希望する中心経営体の受入れを促進する。	・話し合いの場を多くする。 ・将来の経営農地の集約を目指し、農地所有者は出し手・受け手にかかわらず、原則として農地を機構に貸し付けていく。中心経営体が病気や怪我等の事情で営農の継続が困難になった場合には、機構の機能を活用し、新たな受け手への付け替えを進めることができるよう、機構を通じて中心経営体への貸付けを進めていく。

対象地区	集落名	対象地区の課題	対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針	方針を実現するために必要な取組みに関する方針
猪子	猪子	今まで中心経営体であった人が高齢で出し手になったり、病気や怪我等で経営の継続が困難になっている人もいる現状であり、新たな受け手の確保が必要になっている。	定期的に話し合いの継続。	中心経営者の規模拡大の要望や、近い将来農地の貸付けを考えている人等、地域で話し合いをして情報の共有化を図りたい。また、他地域の入作者希望者との話し合いの場の設定も検討する。
成田新田	成田新田	今後中心経営体が引受ける面積よりも、後継者未定の面積の方が多く、新たな農地の受け手の確保が必要である。	離農する前に、認定農業者や新規就農者に町内会で声かけを行うとともに、町内会に受け手がいない場合は、入作を希望する中心経営体の受入れを促進する。	将来の経営農地の集約を目指し、農地所有者は出し手・受け手にかかわらず、原則として農地を機構に貸し付けていく。中心経営体が病気や怪我等の事情で営農の継続が困難になった場合には、機構の機能を活用し、新たな受け手への付け替えを進めることができるよう、機構を通じて中心経営体への貸付けを進めていく。
東沼、すみよし	東沼 すみよし	中心経営体の人でも、後継者のめどがついていない現状がある。受け手は数名いるがこれ以上の面積拡大はあまり見込めない。	離農する前に、認定農業者や新規就農者に町内会で声かけを行う。中心経営体で新たに耕作面積を増やす意向がある人を中心に振り分けていく。	2町内会で密に連絡を取り合い、定期的に話し合いを行う。
三本木	三本木	高齢化による担い手不足。	離農する場合は生産組合に声をかける。	まず個人的に探し、いない場合は生産組合を通して探すようにする。
対馬	対馬	今後中心経営体が引き受ける面積よりも、後継者未定の面積の方が、現時点ではかなり多く、新たな受け手の確保が必要である。	認定農業者や新規就農者に声掛けを行うとともに、中心経営体以外の就農者にも声掛けをしていく。	・生産組合が中心になり、地域農業者のコミュニケーションを図り、継続して、話し合いを続けていく。 ・将来、後継者へ引き継ぐ為にも、現状設備の老朽化、大型機械の導入などから、設備投資が必要であり、行政へ補助事業の充実を積極的に働き掛けていく。
上町、押切中町、押切下町	上町 押切中町 押切下町	・上町に関しては、耕作者10名、平均年齢は61歳であり、法人を中心に規模拡大の意欲はある。個人経営者の中にも、規模拡大の考えがある。 ・押切中町に関しては、耕作者が4名で平均年齢が70代近くであり、ここ10年で大きく変わる要因がある。後継者に関しても、現状ではいないため、将来的には近隣集落に依存する考え方だ。 ・押切下町に関しては、耕作者の中心が10名、平均年齢60代であり、現状では集落営農の考えもなく、個々の経営を持続するのに限界感がある。	・現状の3集落を柱に主体的には考えるが、必要に応じて近隣集落の要望があれば入れていく。 ・離農する場合、まだまだ、組織というより、個人対個人の考えが強いため、集約に結びつかない。最初から誰か分からない人を入れていくのは抵抗があり、また離農する場合は個人的に信頼の得られる個人を探すのが前提にあり、組織というより個人対個人的な考えで進んでいる。 ・押切上町の中心経営体が規模拡大の意向があるため、離農等の際は声をかけて欲しい。	・押切上町の中心経営体、広野地区の農業法人を中心に受託する。 ・持続可能な農業維持を推し進めるため、農家の育成に力を入れていきたい。
落合、土口	落合 土口	自分の農地は自分で現状維持したい農家がほとんど。（できるところまで自分でやりたい）	地区内の農地は地区内で引き受けるという方向で、生産組合が中心となり進めていく。	・生産組合が中心になり、地域農業者のコミュニケーションを図り、継続して、話し合いを続けていく。